



71 植樹祭 昭和23年

昭和二十三年四月四日、青梅市永山公園で植樹祭が行われた際、玉堂はそこへ出向いた。その際、香淳皇后が玉堂を見つられてお声をかけられ、休所に呼ばれた玉堂は、紙包を頂戴した。この御下賜の紙に、玉堂は、植樹祭での両陛下を思いながら、得意の和歌に御礼の心を込めて、後に卷子(展示番号71)と数枚の作品(展示番号72〜78)を差し上げた。香淳皇后と玉堂との、互いを尊敬しあう温かい親交がうかがえる。

玉堂は、奥多摩で活動する中、和歌や俳句にもその優れた才能を示し、『多摩の草屋』などの家集も刊行されて、歌人としても知られる。こうした玉堂の作品が香淳皇后の身近にあったことは、後に香淳皇后が制作された絵巻三部作「やつがしら絵巻」「絵巻葉山」「絵巻那須」の御制作の一つのきっかけになったであろう。

(絵巻本文)

昭和廿三年四月四日青梅の植樹祭に行幸啓松苗を御手植遊はさる、を拜して

大君のうちおろします緞の音

くぬちにひ、さくぬちみなうゑむ

よきことにあうめの山のさちをまねひ

國こそり植よ棟梁の材を

みたけわれ老らくの身にあまりある

いけるしるしをおもはさらめや

御途次に於てはからすも
皇后陛下より御言葉をたまはりて

草の中のぼけに玉歩をとめたまひ

春のひかりか、やき老の目になみた

御休処に召されて
御紙巻包並に御菓子
を賜はる

かしこしや大内山の楮もて

漉かせましたるこれの白紙

はしけやし多摩の山川おかけとて

持ちてたまはるこれの白紙

この紙にその日の影などものしかりまきにて
きこへあけたるにやかて
御言葉のこもれる御内儀
よりの御返しに添て此
頃の事なればとてかりま
きは御かへしたまはる

雲井たかく声をと、めてあまさかる

多摩の川辺にかへるかりまき

芳印

御下賜の御紙もてした、む

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

香淳皇后の御絵と画伯たち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 43

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十九年三月二十七日発行

©2007, The Museum of the Imperial Collections